

# 関西国際空港 豊かな藻場環境の創造 ～2023年度 活動報告～



Shaping a New Journey

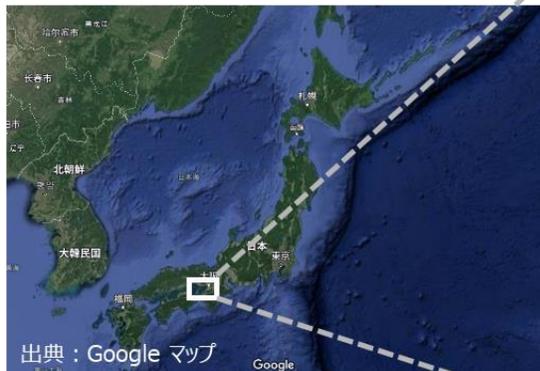


# 目次

---

1. 関西国際空港の紹介
2. 関西国際空港の藻場について
3. Jブルークレジット認証の取得（2022年12月）
4. 2023年度の活動報告
5. 過去のモニタリング結果と今後について

# 1. 関西国際空港の紹介



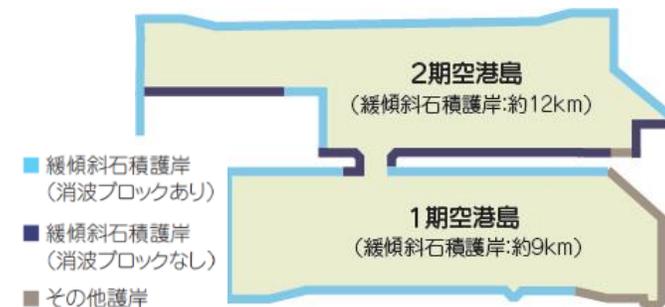
航空機騒音の影響が周辺地域に及ばないように、大阪湾南東部泉州沖約5km、平均水深18～20mの海域を埋め立ててつくった空港です。

## 関西国際空港島

1988年12月 1期空港島護岸概成（総面積510ha）

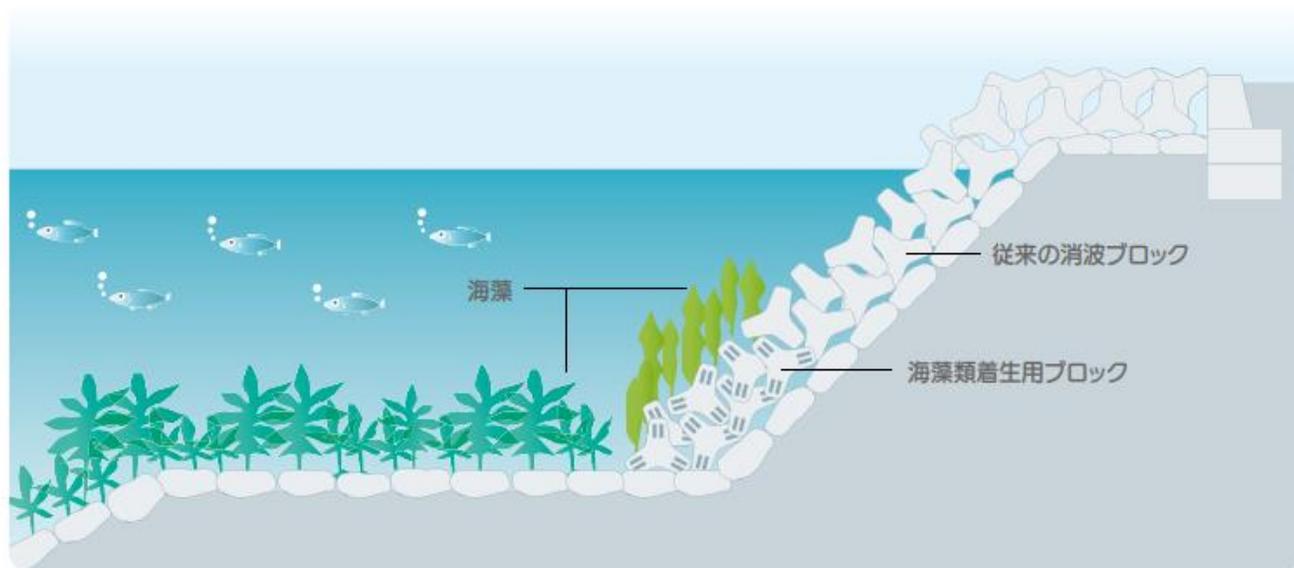
2001年11月 2期空港島護岸概成（総面積545ha）

計画当初から海域環境との調和に配慮した造成がなされ、護岸の総延長24kmのうち的大部分に「緩傾斜石積護岸」を採用しています。



## 2. 関西国際空港の藻場について

- 緩傾斜石積護岸の採用により広い範囲に光が届くようになること、また、造成時に積極的に大型海藻の移植や種付け等の各種工夫をしたことで豊かな藻場環境が生まれ、現在周辺には多種多様な生き物が生息しています。
- 種苗移植を開始した直後の1989年から海藻分布状況の調査を開始し、現在までの30年以上にわたってモニタリング調査を継続して行っています。
- 2022年3月の調査において、海藻着生総面積（藻場面積）が54haであることを確認しています。これは大阪湾の藻場面積のおよそ2割に相当し、産卵や育成の場として水産資源の供給、水質浄化、さらにはCO2の吸収を通じてCO2排出量の削減にも寄与しています。
- 良好な藻場環境の維持・拡大をめざし、近年ではモニタリング調査のみならず、藻場再生にも取り組んでいます。



緩傾斜石積護岸



ガラモ場集まるメバルの稚稚魚



カジメ



シダモクなど

### 3. Jブルークレジット認証の取得（2022年12月）



Jブルークレジット発行証書

- 関西国際空港周辺護岸に生育する海藻によるCO2吸収量を定量化し、Jブルークレジットの認証・発行を受けました。
- これまで行ってきた藻場の環境創造が、CO2排出量の削減にもつながる取り組みに発展しています。

**CO2吸収量：103.2 t-CO2（2017～2021年度の5年分）**

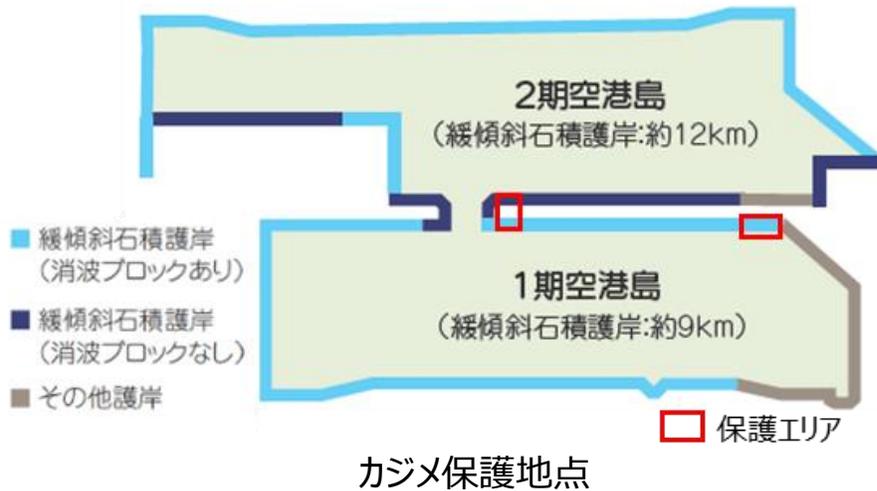
# 4. 2023年度の活動報告

## 藻場の保全 ～大型海藻（カジメ）の保護・再生～

- 近年、アイゴなどの植食性魚類によるカジメの食害が顕在化しています。大型かつ多年生の海藻でもあるカジメは、関西国際空港の藻場にとって非常に重要な海藻の一種として位置付けており、空港島内のカジメの生育が絶たれないよう、保護・再生に取り組みました。
- カジメが多く生育するエリアにおいて、植食性魚類の来襲時期に合わせて保護網の設置を行いました。あわせて、次世代のカジメの育成を目指して、カジメ周辺に新規の着生基盤を設置しました。



### 保護地点と設置した保護網（防護ネット・仕切網）



設置作業の様子

# 4. 2023年度の活動報告

## 藻場の保全 ～大型海藻（カジメ）の保護・再生～

保護網（防護ネット・仕切網）と新規着生基盤の設置状況  
(2023年8月～2024年1月)



海中に設置した仕切網と  
網内に生育するカジメ



防護ネットの設置



新規着生基盤  
(建材ブロック) の設置

- 仕切網の内外で、カジメの残存状況に違いが見られ、網によるカジメの保護が確認できました。



仕切網外（食害あり）



仕切網内（食害なし）

- 2023年8月に設置した新規着生基盤（建材ブロック）において、2024年2月時点でカジメの幼体付着を確認しました。



建材ブロックに付着する幼体

## 4. 2023年度の活動報告

### 地域との連携 ～海藻の移植～

- **大阪湾の海の森（藻場）保全・再生プロジェクト**として、地元自治体である阪南市と連携し、共同で豊かな海づくりに取り組んでいます。この取り組みは2023年2月に大阪・関西万博「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創チャレンジにも登録され、2023年4月にはその一環として**関西国際空港で採取した海藻（シダモク）を阪南市の海に移植**しました。



## 4. 2023年度の活動報告

### 自然共生サイト認定の取得

- 2023年10月25日、関西国際空港島護岸の藻場は、環境省が展開する「自然共生サイト」の認定を取得しました。
- 関西国際空港島が位置する大阪湾において生態系サービスを提供し、生物多様性の保全にとって重要な場所となっていることが評価されています。



クロアワビ



サザエ



スズメダイ

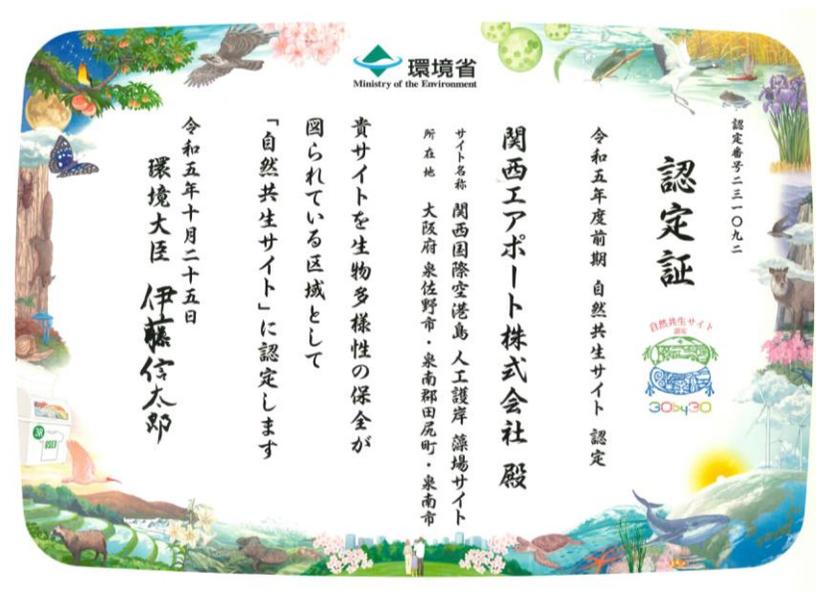


キジハタ



マナモコ、イトマキヒトデ

関西国際空港藻場周辺に生息する海の生き物たち



自然共生サイト認定証

### 「自然共生サイト」認定制度

- 2023年度より正式に始まった環境省の制度
- 「民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域」を環境大臣が認定する。
- 認定区域は保護地域との重複を除き「OECM\*<sup>1</sup>」として登録される。→「30by30\*<sup>2</sup>」目標など、生物多様性保全にかかる世界目標への貢献

\*1 : Other Effective area-based Conservation Measures : 保護地域以外で生物多様性保全に資する地域

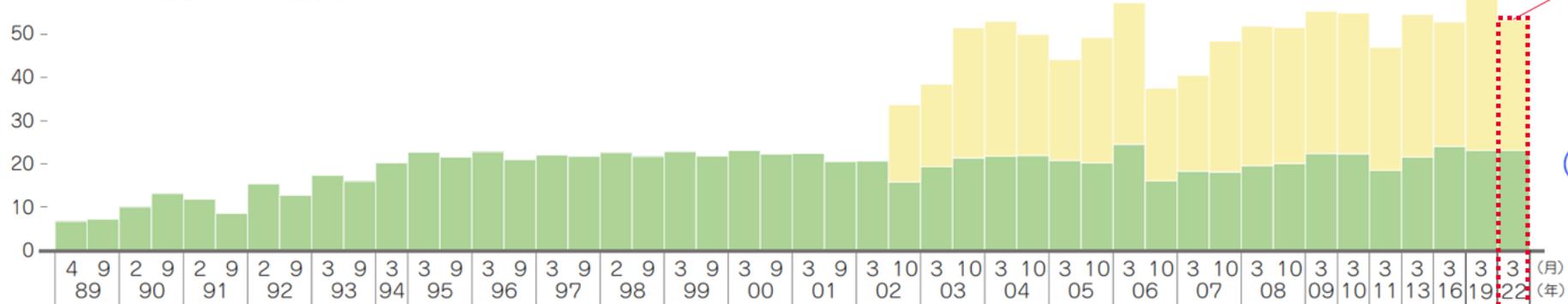
\*2 : 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標

# 5. 過去のモニタリング結果と今後について

## 藻場の生育状況

海藻着生総面積 (ha)

■ 1期空港島 ■ 2期空港島



**54ha**  
(2022年3月)

**CO2吸収量**  
**103.2t-CO2**  
(2017年度~2021年度)

## 今後について

- モニタリング調査を継続して行い、とりまく環境変化にも対応しながら、安定した藻場環境の形成・維持に取り組みます。  
**2024年度は、関西国際空港島全周において藻場の生育状況を確認します。**（2025年3月を予定）
- また、**大阪湾ブルーカーボン生態系アライアンス(MOBA)\***や個々の取り組みを通して、地域と連携した藻場環境の創出・生物多様性の保全に積極的に取り組みます。